

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

平成21年度病害虫発生予察注意報について（送付）
このことについて、第2号を公表しましたので、送付します。

注 意 報

平成21年度病害虫発生予察注意報第2号

平成21年8月24日
熊本県病害虫防除所長

農作物名 水稲（普通期および晩期水稲）
病害虫名 トビイロウンカ

- 1 発生地域 普通期および晩期水稲栽培地域
- 2 発生時期 8月下旬以降
- 3 発生程度 多

4 注意報発令の根拠

- (1) 8月中旬の巡回調査では、トビイロウンカの成幼虫数は、普通期早植水稲で1.31頭/株（平年0.92頭/株）と平年よりやや多く、6ほ場中1ほ場は要防除水準（収穫30日前：3頭/株）を超えていた。普通期水稲では0.44頭/株（平年0.06頭/株）と平年より多い（図1）。
- (2) 普通期早植水稲の発生量は過去5カ年のうち平成19年（8.01頭/株）に次いで多く、普通期水稲では坪枯れが多発した平成17年（0.12頭/株）より多い。
- (3) 発生ほ場率は、普通期早植水稲で100%（平年35.3%、前年33.3%）、普通期水稲で70%（平年27.6%、前年0.0%）といずれも平年より高い（図2）。
- (4) 県予察ほ（農研センター内の無防除田）での8月17日の払い落とし調査では、1株当たりの成幼虫数は10.2頭（H20：0.0頭、H19：0.2頭）と前年および前々年に比べて多かった。
- (5) トビイロウンカの飛来は、7月2日と7月25日に主飛来があり、7月の飛来量は130頭（平年93頭）と平年に比べてやや多かった。

5 防除上注意すべき事項

- (1) 8月中旬の調査時に発生していた主な生育ステージは、普通期早植水稲および普通期水稲ともに若齢幼虫であった。
 - ア 普通期早植水稲
ほ場間差が大きい場合発生状況を確認し、発生量が多い場合は薬剤の収穫日数に注意して、防除する。
 - イ 普通期水稲および晩期水稲
ほ場での発生状況を確認し、要防除水準を超えた場合は、若齢幼虫発生量の多い時期（目安：9月上旬）に防除する。
- (2) 要防除水準は8月中～下旬で1頭/株、ただし収穫30日前で3頭/株である。
- (3) 薬剤散布は、本種が生息している株元に付着するように行う。
- (4) 薬剤散布にあたっては、使用基準を遵守するとともに周辺環境を十分確認し、ミツバチも含め周辺動植物等への飛散などによる影響が無いよう十分注意する。特に、養蜂家へ事前に防除時期等の連絡を行うなど、危害防止に努めること。

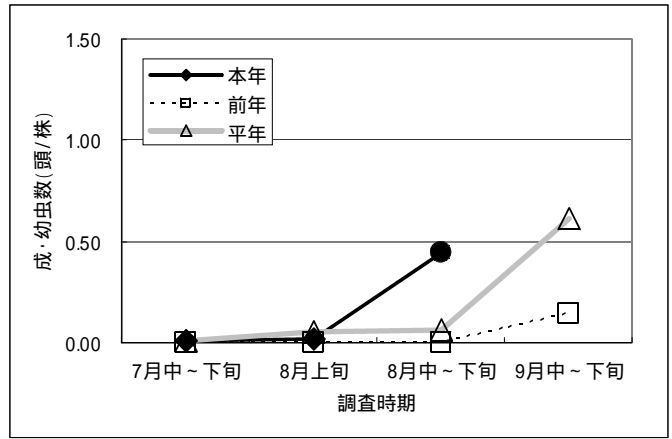
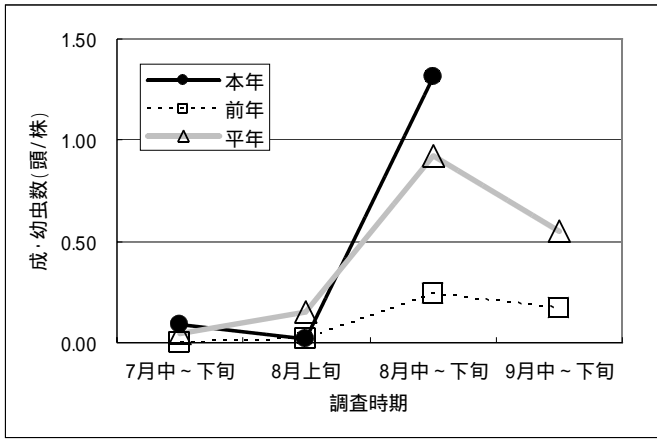


図1 トビロウンカ株当たり虫数 (左：早期・普通期早植 右：普通期)
 平年：H11～H20 (8月上旬の平年値はH18～H20)

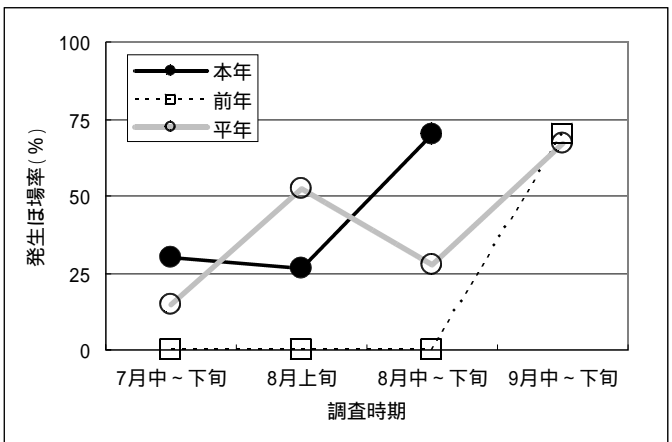
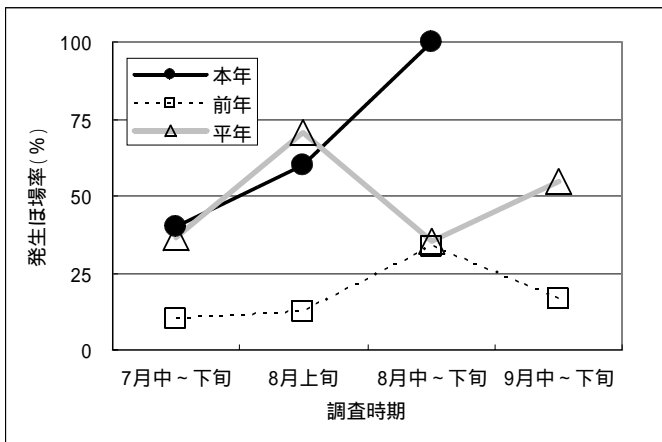


図2 トビロウンカ発生ほ場率 (左：早期・普通期早植 右：普通期)
 平年：H11～H20 (8月上旬の平年値はH18～H20)

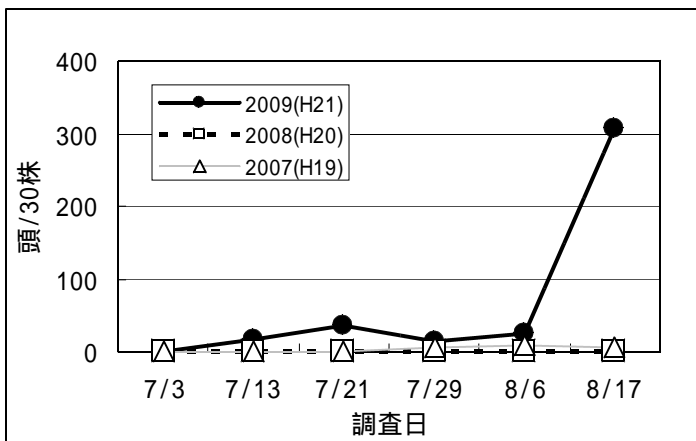
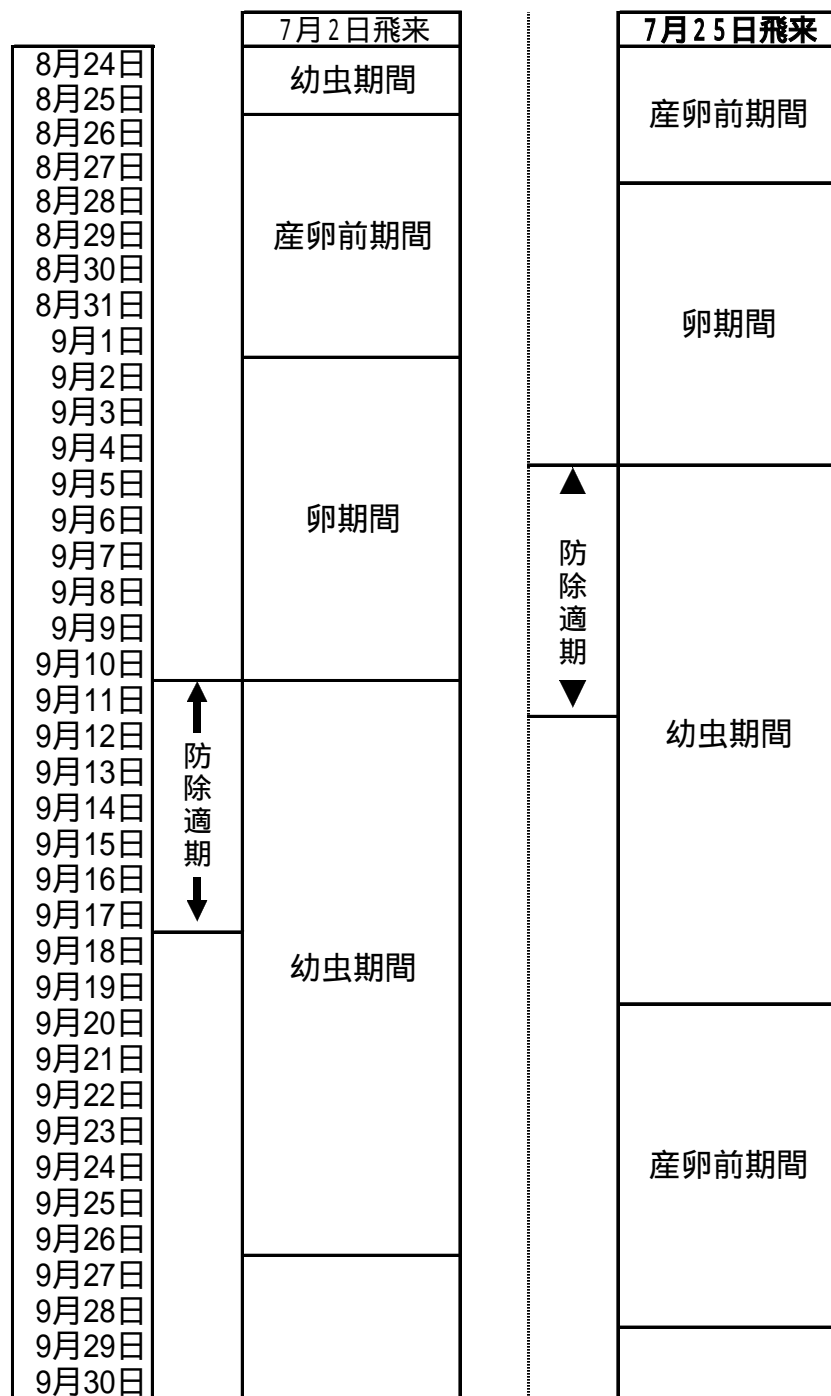


図3 県予察ほにおけるトビロウンカの虫数の推移 (農研センター無防除田)

有効積算温度によるトビロウカの次世代予測(熊本市)



は現在のトビロウカの生育ステージから予測される防除適期